



築上町役場ロビー展

蒙古襲来

奮戦!

うつのみやみちふさ
宇都宮通房

元寇（蒙古襲来）に立ち向かった武将 宇都宮通房
拠点を城井谷に移動した後の豊前宇都宮氏を
関連資料や写真で紹介します。

豊前宇都宮氏の本拠地 城井谷（福岡県築上町）



『蒙古襲来絵詞』江戸時代後期模本（九州大学附属図書館所蔵）

蒙古兵と戦う肥後御家人 竹崎季長

宮崎宮前を出陣する武将

げんこう ゆかり
元寇所縁のネットワーク周遊パネル展

同時開催 ネットワーク加盟自治体パネル展示

2025.10.21(火)~11.21(金)

時間 / 8:30~17:00 (土・日・祝日 休館)

会場 / 築上町役場 1階 住民プラザ

福岡県築上郡築上町椎田891-2



主催 / 築上町教育委員会 お問い合わせ / 0930-52-3771 (文化財保護係) 共催 / 元寇所縁のネットワーク

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。

今から750年前、日本始まって以来、最大の国難 元寇 (蒙古襲来) に立ち向かった一人の勇者がいた。

奮戦！ 宇都宮通房

第1章 宇都宮氏 豊前国に根を下ろす

文治元年 (1185)、頼朝は反旗を翻した源義経一党を攻略するため、宇都宮信房を九州に派遣しました (「吾妻鏡」)。鎮西奉行の天野遠景は消極的でしたが、信房はこれを単独で成功させ、九州統一の突破口を開き、その功績で、豊前国に所領を得て、仲津郡木井馬場 (みやこ町) を本拠地として、神楽城を築きました。



宇都宮信房肖像画 (部分)



神楽城 (みやこ町木井馬場)

第2章 蒙古襲来の脅威

(1) クビライハーンの野望

モンゴル帝国の統一を果たしたチンギスハーンの孫、クビライハーンは領土拡大の野望を抱きながら、東ヨーロッパから東アジアにかけてのユーラシア大陸の広大な領域を支配する大帝国を築き上げ、国号を「大元」(元)と改めました。朝鮮半島の高麗も属国にし、中国南側を支配する「南宋」を攻略するため、日夜戦闘に明け暮れていました。

元にとって日本は、火薬の原料、硫黄の産出国で、その硫黄や木材、米などが敵対する南宋に輸出され、戦争継続に支障を来していました。そこで南宋の友好国、日本と同盟を結ぼうとしますが、鎌倉幕府は拒否しました。日本も高麗のように属国にされる可能性が高かったからです。

(2) 西国移住令と宇都宮通房

文永8年 (1271) 9月13日に西国移住令 (九州下向命令) が幕府から、御家人に発令されます。これは西国に領地を持つ御家人を移住させ、九州の沿岸警備を強化する幕府の政策で、豊前宇都宮氏も三代、信景までは京都・関東と豊前国を行き来する生活でしたが、通房は西国移住令により豊前国に完全移住しました。以後、土着し「城井氏」を名乗るようになります。



真如寺跡の国東型宝塔
真如寺は二代景房の菩提寺
(築上町真如寺)

(3) クビライハーンが日本遠征に向けて始動

同じ頃、高麗の反元勢力の三別抄は済州島を拠点に城を構え、防塁を築き、元の勢力に立ち向かいますが、文永10年 (1273) 4月、ついに足掛け四年に渡る三別抄の反乱は鎮圧され、高麗は完全に元の勢力下に置かれました。この後、クビライハーンはいよいよ日本遠征を本格化させます。

第3章 文永の役と通房の活躍

宇都宮通房は文永11年 (1274) 10月20日 (現在の11月26日) に博多湾岸に上陸した元の兵士 (蒙古兵) と戦うため出陣しました。八幡神の神徳を説いた縁起『八幡愚童訓』には、「馳せ参る軍兵は大宰少貳、大友、紀伊一類・・・」と記され、この紀伊一類が宇都宮氏の惣領家「通房」とその配下の者たちのことです。

元軍は当初、海辺を確保後、水城を越え内陸へ侵攻し、大宰府を制圧して、武器と年貢米を押収し、春まで滞在し続け、春に大規模な援軍を元から送り込み一気に日本を制圧する計画でした。

日本側では鎌倉幕府の命を受け、各地から駆けつけた御家人たちが迎え撃ち、激しい戦闘が繰り返されました。

元軍の太鼓や銅鑼、てつはうの破裂音が激しく、日本の馬は驚いてうまく乗りこなすことができず、また元軍の矢は飛距離は短い、ヤジリに毒が塗られ、日本側はかなり苦戦しました。

そうした中、箱崎宮前を出陣する竹崎季長、それに続く豊後の大友頼泰の手勢の中に、鎧の脛あてに左三巴紋が燦然と輝く、豊前宇都宮家四代目当主、宇都宮通房の姿もありました。(諸説あります。)



鎧の脛あてに左三巴が見える武者
チラシ表面右図の左から4人目
(一部拡大)

第4章 弘安の役とその後の豊前宇都宮氏の繁栄

文永の役は、冬の季節風が吹いて本国に帰れなくなることを恐れた元軍が急遽帰国を決断し、その撤退であっけなく終結しました。

鎌倉幕府は文永の役後、元の再来に備え、博多湾岸に約20kmに渡り石築地 (元寇防塁) を築かせますが、宇都宮通房たち豊前国の御家人も参加し、今宿海岸 (福岡市西区) の元寇防塁を築きました。

建治2年 (1276)、南宋を滅亡させたクビライハーンは降伏した40万人の武將を日本再遠征軍に再編成しました。(弘安の役)

御家人の築いた石築地 (元寇防塁) が元軍の上陸を妨げ、また小舟を連ねて元軍船に夜襲をかけ、多くの戦死傷者が生じました。

こうして日本側と元軍の緊張が高まる中、台風が襲い、元軍の軍船が次々に沈没し、壊滅、敗退しました。

宇都宮通房はこの元寇での活躍の後、鎌倉幕府の実権を握る北条得宗家との結びつきを強め、五代頼房 (築上町に拠点を移す)、六代冬綱、その後、天正16年 (1588) に宇都宮鎮房が黒田官兵衛に謀殺されるまでの豊前宇都宮氏の繁栄の基礎を築いたのです。



国史跡 生の松原元寇防塁